

予報第2号(6月)

大 防 第 1012号
平成22年5月27日

関係各位

大阪府病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

標記について次のとおり発表したので送付します。

病虫害発生予報第2号(6月)

平成22年5月26日
大阪府病虫害防除所

農作物名	病虫害名	予想発生量
水稲	いもち病	□
	縞葉枯病・ヒメトビウンカ	□
	イネミズゾウムシ	□
	ニカメイガ	△
	ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)	□
	イネアオムシ(フタオビコヤガ)	□
ぶどう	べと病	□
	灰色かび病	□
	褐斑病	○
	クワゴマダラヒトリ	○

	フタテンヒメヨコバイ	○
みかん	黒点病	○
	そうか病	○
	コナジラミ類	□
	ミカンハダニ	△
もも	せん孔細菌病	○
いちじく	イチジクヒトリモドキ	□
果樹全般	果樹カメムシ類	●
なす	灰色かび病	□
	すすかび病	○
	うどんこ病	△
	ミナミキイロアザミウマ	□
トマト	灰色かび病	□
	葉かび病	○
非結球あぶらな科葉菜類 (大阪しろな、こまつな等)	コナガ類	△
きく	黒斑病	□
	白さび病	□
野菜・花き類	アブラムシ類	□
	ミカンキイロアザミウマ	△
	シロイチモンジヨトウ	△
	ハモグリバエ類	△
	オオタバコガ	△
	コナジラミ類	△
▲:少ない △:やや少ない □:並 ○:やや多い ●:多い		

6月気象予報(大阪管区气象台5月22日発表)

	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温(確率)	40	30	30
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

A 水稻

【いもち病】

[予報内容] 発生量 : 並

[予報の根拠]

- (1)5月の降水量はやや少なく、いもち病が発生しにくい気象条件であった。
- (2)6月上旬の降水量はやや多く、気温がやや低めと予報され注意が必要である。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)育苗箱において発生した場合、その箱の苗は本田に移植しない。
- (2)田植後の余り苗を水田に放置しない。
- (3)発生が予想される場合は、田植前に箱施用剤を処理する。
- (4)密植をしない。

[メモ]

- (1)低温、日照不足、降雨が多いと発病が多くなる。
- (2)近年、他府県において MBI-D 剤(メラニン合成阻害剤)耐性菌の発生が報告されている。

MBI-D 剤成分例:カルプロパミド(ウィン)、ジクロシメット(デラウス)、フェノキサニル(アチーブ)等

【縞葉枯病】(ヒメトビウンカ)

[予報内容] 発生量 : 並

[予報の根拠]

- (1)耕起前水田の捕虫網によるすくい取り調査では、ヒメトビウンカは捕獲されなかった。
- (2)近年、西日本で増加傾向にある。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)前年度発生があった地域あるいはその周辺地域では、田植前に箱施用剤を処理する。

[メモ]

- (1)ヒメトビウンカは縞葉枯病を媒介する。

【イネミズゾウムシ】

[予報内容] 発生量 : 並

[予報の根拠]

(1)昨年度の予察ほ場での発生はやや少なかった。

(2)5月の予察灯への飛来は見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)常発地では、田植前に箱施用剤を処理する。さらに発生が多いほ場は、移植後の防 除を行う。

(2)手植田では、苗の活着後に粒剤を施用する。

【ニカメイガ】(第1世代幼虫)

[予報内容] 発生量 : やや少ない

[予報の根拠]

(1)昨年度の予察ほ場での発生は平年同様ほとんど見られなかった。

(2)5月の予察灯への飛来は見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)前年発生が多かった水田では、田植前にフィプロニル剤(プリンス粒剤など)を含む箱施用剤を処理する。

(2)箱施用剤を処理しない場合は、7月上中旬に防除を行う。

【ジャンボタニシ】(スクミリンゴガイ)

[予報内容] 発生量 : 並

[予報の根拠]

(1)昨年度のほ場での発生量は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)水深4cm 下の浅水管理とする。

(2)桃色の卵塊は水中へ掻き落とし、成貝は拾い取り、処分する。

[メモ]

(1)田植後20日以内の苗が食害されるので、この時期の防除を徹底する。

【イネアオムシ】(フタオビコヤガ)

[予報内容] 発生量 : 並

[予報の根拠]

(1)昨年度の予察ほ場での発生はやや多かった。

(2)近年、府内中山間部を中心に局地的に多発している。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期の防除を徹底する。

(2)フィプロニル粒剤の効果は低いので注意する。

[メモ]

(1)この虫の生育適温は25～27度。

(2)多肥栽培は発生を助長する。

B 果樹

1 ぶどう(デラウェア)

【べと病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。

[メモ]

(1)5月～10月にかけて、降雨が続き、気温が低めに経過すると発生が多い。

【灰色かび病】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、発生は平年並だった。

[メモ]

(1)ハウス栽培では換気やマルチを行い、湿度を下げる。

(2)灌水や薬剤散布は午前中に行い、夜間の湿度が上がらないようにする。

【褐斑病】

[予報内容]発生量:やや多い

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、発生はやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)近年発生が増えている。

(2)ストロビルリン系殺菌剤に対する感受性の低下が見られる。

(3)施設ぶどうでは、収穫期が近いので、薬剤散布は収穫前日数に十分注

意する。

【クワゴマダラヒトリ】

[予報内容]発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、発生がやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)春の低温で生育が遅れている園では、大きな被害を受けやすいので注意する。

【フタテンヒメヨコバイ】

[予報内容]発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、発生がやや多かった。

2 みかん

【黒点病】

[予報内容]発生量 : やや多い

【予報の根拠】

(1)5月の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。

(2)6月は雨が多く、気温も低めと予報されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)枯枝が多く残っているところでは、直ちに伝染源となる枯枝の除去に努める。

(2)降雨の影響で防除適期(5月下旬)に薬剤散布できなかった園では、特に注意する。

[メモ]

(1)この病気は、枯枝上から雨滴によって広がっていく。

【そうか病】

[予報内容]発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。

(2)6月は雨が多く、気温も低めと予報されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)伝染源となる越冬病斑は除去する。

(2)降雨の影響で防除適期(落弁期)に薬剤散布できなかった園が多い。

【コナジラミ類】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、平年と同様、発生は見られなかった。

【ミカンハダニ】

[予報内容]発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、発生は平年より少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)同一薬剤の連用を避ける。

3 もも

【せん孔細菌病】

[予報内容]発生量:やや多い

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、平年と同様、発生は見られなかった。

(2)6月の降水量はやや多いと予報されている。

(3)5月下旬に強い風雨がいった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)多発すると防除が困難となるので、早期防除を心掛ける。

(2)強い風雨後の発生に十分注意する。

4 いちじく

【イチジクヒトリモドキ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)5月下旬の調査では発生は確認されなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)新梢生育期に食害を受けると、被害が大きい。

(2)春の低温で新梢の生育が遅れており、食害が大きな被害につながりやすい。

(3)本種は蛹で越冬し5月下旬頃、第1世代の幼虫が発生する。年5世代程度発生する。

5 果樹全般

【果樹カメムシ類】

[予報内容] 発生量: 多い

[予報の根拠]

(1)5月下旬のフェロモントラップで誘殺数が多かった。

(2)隣接する和歌山県でも、予察灯飛来虫数が多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)果樹をよく加害するカメムシは、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの3種である。

(2)もも、うめ、かきなどの果樹類を加害する。多発生した場合は、みかんやぶどうを 加害することもある。

[メモ]

(1)園地によって発生量に大きな差がある。

(2)去年の発生は少なかった。

C 野菜

1 なす

【灰色かび病】

[予報内容] 発生量: 並

[予報の根拠]

(1)5月下旬のなすの巡回調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)多湿条件下で発生が多くなるので施設の換気を十分行うとともに、茎葉が過繁茂に ならないよう整枝を工夫する。

(2)果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。

(3)同一薬剤の連用を避け、薬剤のローテーション散布を行う。

[メモ]

(1)灰色かび病は、低温多湿条件下で発生が多くなる。

【すすかび病】

[予報内容] 発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1)5月下旬のなすの巡回調査では、発生はやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ストロビルリン系薬剤(アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブル)に 対す る感受性が低下している。

(2)病葉は早めに摘除し、ハウス外に持ち出し処分する。

(3)初期防除が重要となるので、発病を認めた場合には、葉の裏にもかかるように

ていねいに薬剤散布を行う。

(4)同一薬剤の連用を避け、薬剤のローテーション散布を行う。

[メモ]

(1)すすかび病は多湿条件下や草勢が低下したときに発生が多くなる。

【うどんこ病】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

(1)5月下旬のなすの巡回調査では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)こまめに摘葉、摘芯を行い、過繁茂にならないようにする。

(2)発生初期の防除を徹底する。

(3)草勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。

[メモ]

(1)うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。

【ミナミキイロアザミウマ】

[予報内容] 発生量: 並

[予報の根拠]

(1)5月下旬のハウスなす巡回調査では、発生は平年並、露地なすでの発生はやや少な かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)果実や葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する

2 トマト

【灰色かび病】

[予報内容]発生量 : 並

[予報の根拠]

(1)5月下旬のトマトの巡回調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)多湿条件下で発生が多くなるので施設の換気を十分行うとともに、茎葉が過繁茂に ならないよう整枝を工夫する。

(2)果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。

(3)同一薬剤の連用を避け、薬剤のローテーション散布を行う。

[メモ]

(1)灰色かび病は、低温多湿条件で発生が多くなる。

【葉かび病】

[予報内容] 発生量 : やや多い

[予報の根拠]

(1)ハウストマトの5月下旬の巡回調査では、発生はやや多かった

[防除上考慮すべき事項]

(1)施設栽培においては換気に努め、マルチを行う等、湿度を低く保つ。

(2)下～中位葉に発生しやすいので、発病を認めたら早めに摘葉し、病葉はハウス外に 持ち出し処分する。

(3)初期防除が重要となるので、発病を認めた場合には直ちに防除を行う。

(4)同一薬剤の連用を避け、薬剤のローテーション散布を行う。

(5)例年発生の多いほ場では、抵抗性品種の導入を行う。

3 非結球あぶらな科葉菜類(大阪しろな、こまつな等)

【コナガ】

[予報内容]発生量: やや少ない

[予報の根拠]

(1)5月のフェロモントラップへの誘殺虫数はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期に防除を行う。

D 花き

1 きく

【黒斑病】

[予報内容]発生量: 並

[予報の根拠]

(1)5月下旬の巡回調査では、発生は少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。

[メモ]

(1)降雨が多いと発生が多い。

【白さび病】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、一部で発生が見られた。

E 野菜・花き類

【アブラムシ類】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)5月下旬の巡回調査では、発生は平年並であった。

(2)黄色水盤での5月の誘殺虫数は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)少発生時の防除を徹底する。

(2)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

[メモ]

(1)アブラムシ類は多種類のウイルス病を媒介する。

【ミカンキイロアザミウマ】

[予報内容]発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)5月下旬の露地水なすの巡回調査では、発生は少なかった。

きくの青色粘着トラップの誘殺虫数は平年よりやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)収穫後の残さは、他作物等への発生源となるので、速やかにほ場から持ち出し処分する。

(2)きくでは膜割れ(蕾から着色した花卉が見える前)前後の防除を徹底する。

[メモ]

(1)ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマなどは、作物を加害するだけでなくウイルス病(TSWV)を媒介する。

【シロイチモジヨトウ】

[予報内容]発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)フェロモントラップでの5月下旬の誘殺虫数は、平年よりやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期(若齢幼虫期)の防除を徹底する。
- (2)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【ハモグリバエ類】

[予報内容] 発生量 : やや少ない

[予報の根拠]

- (1)5月下旬の巡回調査では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)被害葉、残さはほ場から持ち出し処分する。
- (2)しゅんぎくや大阪しろな等の軟弱野菜では、収穫後に地表面をビニール被覆し、太陽熱により土中の蛹を殺すことで、次作の被害を軽減できる(4～10月の間可能)。

【オオタバコガ】

[予報内容] 発生量 : やや少ない

[予報の根拠]

- (1)5月下旬の巡回調査では、平年と同様発生は見られなかった

- (2)フェロモントラップでの5月の誘殺虫数は平年よりやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)被害のあった果実や新芽は早急に処分し、周辺の幼虫を探して捕殺する。
- (2)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合以下)で被覆し、成虫の侵入を防止する。

【コナジラミ類】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

- (1)5月下旬のなす巡回調査ではハウス、露地ともに発生は平年よりやや少なかった。

トマトハウスの黄色粘着トラップの誘殺虫数は、平年よりやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期の防除に努める。
- (2)被害葉や残さは、ほ場より持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。
- (3)施設では、開口部を寒冷しゃで被覆し、成虫の侵入を阻止する。

- (4)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- (5)ほ場周辺の除草にも努める。

●大阪府病虫害防除所ホームページ

<http://www.jppn.ne.jp/osaka>

防除指針を掲載しています(毎月アップデート)

●病虫害発生情報メールサービス

申込先 大阪府病虫害防除所メールサービス担当

TEL 072-958-6551(内線232)

<情報料無料>

年間約40件の病虫害情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府環境農林水産総合研究所(本部)

企画調整部技術普及課

おおさかアグリメール受付担当

TEL 06-6972-7666

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

(受信に要する通信費は自己負担です。)

●Web版大阪府園芸植物病虫害図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病虫害」

<http://www.epcc.pref.osaka.jp/afr/zukan/index.html>

(社団法人大阪府植物防疫協会)